

多高通信

第140号 平成29年3月28日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

祝 39回生卒業おめでとう!!

3月1日、第39回卒業証書授与式が行われ、多賀城市長・菊地健次郎様ほか、たくさんのご来賓の方々のご列席を賜り、多くの保護者に見守られながら、39回生273名が巣立ちました。

卒業証書の授与



感謝の気持ちを込めた卒業生による合唱



■送辞 木村千恵(2年4組 玉川中出身)

先輩方の明るく一生懸命な姿は私たちの目標であり、誇りです。私たちはこの誇り高き多賀城高校の伝統をしっかりと受け継ぐとともに、さらなる成長へと「さどくゆたかに、たくましく」励んでいきたいと思えます。

この先、先輩方は進学や就職にと、それぞれの道へと進まれます。日々めまぐるしく変化する世界情勢の中で、日本も多くの問題を抱えています。そんな不透明な時代、時に苦しく不安なときもあるかと思いますが、しっかりと前を向き、多賀城高校で培ったことを礎に活躍ください。

■答辞 卒業生代表 岩佐彩音

これまで三年間、この多賀城高校で過ごした日々は最高の高校生活でした。多くの友人・先生方に出会い、様々なことを学ぶことができました。皆と過ごした日々は私の一生の財産です。私たち39回生の未来はまだまだこれからです。今日から各々新たな道を進んでいきますが、周りの人への感謝の気持ちを忘れず、自分を信じ突き進んでいきましょう。

大船渡津波伝承館主催

防災・減災コンテスト 優秀賞

大船渡津波伝承館が主催する「防災・減災コンテスト」で、本校の生徒会での防災活動が優秀賞に選ばれました。

1次審査を通過した12団体が2月25日に東北大学災害科学国際研究所で行われたプレゼン審査に臨みました。当日は審査期間中ということもあり、



生徒が自ら発表することが難しかったため、生徒会顧問の今泉教諭が津波の聞き取り調査やボランティア活動などを中心とした活動の様子について発表を行いました。その結果、「まんまるママいわて」が発表した「ママが支える一家の防災」

に次ぐ優秀賞を受賞することができました。生徒会、ボランティアでの取組が各地で活躍する団体と肩を並べる評価をいただき、今後の活動の励みになりました。

東日本大震災メモリアルday

3月4日・5日の2日間、

本校を会場として東日本大震災メモリアルdayを開催しました。東日本大震災など各地の震災の経験と教訓を後世に継承し、国内外の防災・減災に貢献することを目的としたものです。全国から計11の学校を招待し、防災減災活動や課題研究の成果発表や、ワークショップを通じた意見交換を行いました。



1日目は、開会行事で宮城県教育長(鈴木洋教育監兼教育次長挨拶文代読)及び武政功復興庁宮城復興局長からご挨拶をいただき、東北大学災害科学国際研究所佐藤健教授から「DPOの実現に向け

ポスター発表、口頭発表の様子



て高校生に期待すること」の基調講演がありました。災害を数値化する自然科学的なアプローチと、地域を学ぶことが防災・減災につながるといった社会科学的なアプローチ両面の話をいただき、まさに防災・減災は文理融合型のアプローチが必要であることが話がありました。

その後、参加各校からの口頭発表とポスター発表がありました。口頭発表で興味を持った分野について、参加者がその詳細説明を受け、それに対しての質疑という形式が進められました。どの学校もその地域の状況に応じた特色ある取り組みを行っており、多くの新たな発見のある発表となりました。

夜は宿泊するホテルに会場を移し、交流会・懇親会を行いました。それぞれの学校の様子や、今取り組んでいることなどについて、それまでの堅い形ではなく和気あいあいと情報交換が行われました。

2日目は、今村文彦東北大学災害科学国際研究所所長と和田正春東北学院大学教養学部教授にご挨拶をいただいた後、ワークショップ「もし24時間前に戻れたならば」を行いました。自分だけが災害が来ることを知ることができたらという設定で話し合い、様々な場面を想定した細かな意見が出されました。特に、高齢者、身体障害者、妊婦などの災害弱者と呼ばれる方々の避難について配慮の必要性を訴える意見が多く出されていました。このワークショップでは本校生徒がファシリテーター役をつとめ、諸先生方や来賓の方々から、散漫になりがちなワーク



ワークショップの様子。本校生徒はファシリテーターとして活躍しました!

ワークショップのまとめについて、方向性を示しながら議論をリードしていったとお褒めの言葉をいただきました。

ワークショップのまとめとして、野澤令照宮城教育大学教授からコメントをいただきました。ワークショップでの視点の的確さをどのグループについても褒めていただき、さらには宮城県内で被害が少なかった事例や復興において良い事例などの紹介などもありました。地域コミュニケーション力の向上や高校生、中学生が持っている力の活かしかなどについて助言をいただきました。

昼食後、県外からの参加者を中心に本校生徒がガイドとなり被災地案内を行いました。バスの車窓から七ヶ浜町の国際村や仮設住宅、そして菖蒲田浜の防波堤などを見学しました。その後、イオン多賀城店で一行は下車し、DPOを用いた当時の映像・画像と合わせた当時の映像・画像と合わせた「まち歩き」を行いました。被災地を高校生自らがガイドし、単に津波の恐ろしさを伝えるのではなく、都市型津波の特徴や地理・地形的な自然科学側面、多賀城の史跡の解説など人文・社会科学的な側面、加えて復興の過程と課題などについて携帯タブレットに入れたアーカイブを使用しながら案内する姿は未来志向の新たなタイプの語り部であると感想をいただきました。



末の松山にて



本校設置の波高表示板の案内

ゴールの多賀城駅では皆で別れを惜しみ、来年度の再会を誓って解散となりました。

参加校一覧

- 北海道 室蘭栄高等学校
- 青森県 八戸北高等学校
- 岩手県 釜石高等学校
- 福島県 磐城高等学校、ふたば未来学園高等学校
- 兵庫県 舞子高等学校、芦屋高等学校
- 神戸大学附属中等教育学校
- 新潟県 新潟県立工業高等学校
- 宮城県 石巻西高等学校、多賀城市立東豊中学校

熊本県立東稜高等学校の

皆さんが来校しました!



3月3日、熊本地震後の7月に訪れた熊本県立東稜高等学校から、徳永憲治校長先生、田畑清霧先生、そして松井生徒会長が来校しました。

熊本地震直後の学校や近隣の様子、そしてこれまでの復興の様子について、丁寧に報告をして

くださいました。震災直後には体育館だけではなく、校庭には車で避難してきた方々が溢れていたそうです。そのような中、生徒会がボランティア活動を行い、避難してきた方々のお手伝いをしたことなどをお聞きしました。また、地震の影響で学校施設の一部が使用できなくなったことや、様々な行事への影響などについて話を聞きました。

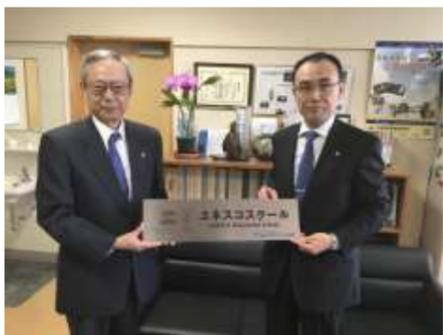
今回は熊本を訪れたメンバーと本当に短い時間の再会でしたが、今後も継続して生徒会同士が交流できることを楽しみにしています。

■小野寺杏(2年2組 利府西中出身)

熊本地震直後から今日に至るまでの復興の様子について説明していただき、熊本がどれだけ復興しているかを詳しく知ることができました。今後もお互いの復興について考え、生徒会などを通じて交流する機会をより多く持つことができればと思います。

ユネスコスクールに

加盟承認されました!



2015年に加盟申請を行っていた、ユネスコスクールへの加盟申請について、2017年2月1日付けで正式に承認されました。今回は2015年以前に日本ユネスコスクール国内委員会よりパリのユネスコ本部へ申請された40校が対象となってい

ます。3月6日には、公益社団法人仙台ユネスコ協会会長中村孝也様、専務理事千田稔様が、本校までユネスコスクール加盟に伴うプレートをお届けに来てくださいました。今後、ESDの考えに基づいた活動をさらに発展・充実させていきます。

第6回多賀城・万灯会

ボランティア参加しました

東日本大震災から6年目を迎えた3月11日、NPOゲートシティ多賀城が企画する多賀城・万灯会(まんどろえ)に本校から運営ボランティアとして33名の生徒が参加しました。

当日は15時から、震災時に多賀城市内で犠牲になられた188名の方々の慰霊を込め、多賀城駅前広場の震災モニュメント前において、約300人が集まり行われました。貞観津波の際も犠牲者慰霊のために灯されたという万灯皿

188枚に火を灯し、さらにそれぞれのメッセージが書かれた紙コップにも順に

明かりが灯されて行きました。紙コップの灯火は「3.11」と形取られ、日が暮れた駅前広場に浮か

び上がりました。生徒は、受付やおしるこの配布、万

灯皿や紙コップへの点灯などの様々な仕事に取り組んでい

ました。

■佐々木南実(2年6組 岩切中出身)

今回このボランティアに参加することで、6年前の小中学生だった震災当時の自分よりも復興にしっかりと関わることができましたし、地域の方々の震災への思いを知ることができました。そして自分自身にとってもあの震災を振り返るいい機会となりました。

私が多高の生徒としてボランティアに参加するのは今回で2回目でしたが、イベントにお越しいただいたみなさんに「ありがとう」といった声をかけていただけると



本当に嬉しかったです。とても寒かったですが、自分の思いを行動に移すことができ良かったと思います。

宮内地区災害公営住宅

合唱部演奏会

3月12日、合唱部が普段から指導をいただいている「心に花を咲かせよう」

合唱団の皆さんと共に、宮内災害公営住宅集会所で演奏会を行いました。当日は合唱部部員のうち数名

がインフルエンザのため出演が叶いませんでしたが、卒業生の応援もあり演奏

を務めることができました。他の合唱団を含め総勢80名が出演する演奏会となりました。

宮内災害公営住宅(復興住宅)は、津波被害から再興した地域のシンボルの「八幡神社」に隣接し、多賀城市最後の復興住宅として完成した2棟50戸の住宅です。今後も、このような復興住宅にも引き続き歌声を届けたいと考えています。

■部長 高橋里奈(2年4組 中野中出身)

たくさんの方々にお越しいただき、OGの先輩方と一緒に星野源の「SUN」とジブリメドレーを演奏しました。少人数での演奏やトッパッターと言った緊張もありましたが楽しんで演奏することができました。また、心に花を咲かせよう合唱団の皆さんとも一緒に歌わせていただき、部員のスキルアップにもつながりました。

私たちの目標は多くの人の心に届く合唱をすることなので、今回のコンサートで私たちの歌が地域の方々の心に届けばうれしいです。これからもこのような活動を続けていきたいと思っています。

東北大学災害科学国際研究所

今村文彦先生 特別授業

3月14日、災害科学科1年生を対象に東北大学災害科学国際研究所長の今村文彦先生による特別授業「津波から生き抜く、じぶん防災プロジェクト」がありました。同研究所助教の佐藤翔輔先生の共著による小冊子「じぶん防災プロジェクト」を基にし



た授業でした。

「じぶん防災プロジェクト」とは、単に読むだけの冊子ではなく、東日本大震災での経験をもう一度ふり返り、津波とは何かを知り、今度津波が襲ってきたとき、自分はどう行動するかを考える冊子となっています。この目的を達成するために、冊子は「東日本大震災を津波災害の視点から振り返る」「津波の基本を理解する」「津波から生き抜くための、できることをいましよう」という3章構成と7つのワークシートからなっています。

今村先生のシミュレーション動画を交えながらの分かりやすい講義とワークシートの作業を行う2時間でした。最後にはこの冊子に対する意見、質問、有用性などについて生徒からいくつもの発言があり、予定時間をオーバーするほどでした。

■菊田ほのか(1年7組)

多賀城二中出身)

今村先生の冊子を読んでも多くの人に届け、大きな災害を経験したことが無い人や災害について考えたことが無い人も防災に活用してもらいたいと思いました。また、今回の授業で「スクリプト」「認知マップ」という言葉を初めて聞きましたが、知っているだけで防災への取り組み方も変わってくると思うので、今日学んだことを友人や家族と共有したいと思います。



昨年度創立40周年という節目の年を経て、今年度から災害科学科設立という新たなステージを迎え、生徒・職員ともに今までにないさまざまな経験を積むことができた年となりました。

来年度も多賀城高校をよろしく願っています!



さとく
ゆたかに
たくましく